

予防接種をしましょう

2004.08.31

夏休みが終わって、子どもたちは新学期を楽しんでいるようです。毎年、9月から10月は流行する病気が一番少なくなる時期です。なぜかわかりませんが、病気のウイルスや細菌の夏休みなのかもしれません。9月と10月の2回に分けて、予防接種のことを書いてみます。日本では学校入学にはあまり関係がありませんが、アメリカでは大学に入学するときに必要な予防接種を受けていないと、入学することができません。21世紀は予防医学の時代。任意接種のものもぜひ受けてください。

BCG：乳幼児期の結核菌によって起こる髄膜炎や骨髄炎など重症な病気は80%程度予防できます。結核そのものの予防効果は50%程度といわれています。できるだけ3ヶ月過ぎに受けることが望ましいです。来年度から、ツ反をしないで直接BCGを打つように変わる予定です。

三種混合：百日咳、ジフテリア、破傷風を予防します。百日咳は2歳くらいまでに罹り、小さい子どもほど重症なので、BCGと同じように3ヶ月過ぎにはじめましょう。初回の3回が終わるころには、95%以上の百日咳の予防効果があります。

ポリオ：6週間隔で2回飲む必要があります。現在日本では流行がありませんので、ほかのワクチンを優先して、春と秋に飲むことができればいいです。特に、1歳前後で麻しんとどっちにしようか迷ったときには麻しんを優先してください。

麻しん：1歳のお誕生日が過ぎたら真っ先に最優先で受けてほしいワクチンです。理由は麻しんに罹って命を落とす子どもがまだまだいるという事実からです。保育園に入園してほかの子どもから感染症をもらう可能性の高いお子さんは、8～10ヶ月のときに、任意接種で麻しんのワクチンをすることを勧めています。

風しん：今年本州方面で流行して問題になりました。流行すると、先天性風疹症候群といって、目や耳や心臓に病気を持って生まれてくるお子さんが増えます。流行そのものを抑えるために、いまは以前の中学女子だけの接種から、全員接種に変わりました。自分の子どもの健康のためだけでなく、子ども全体の健康に役立つワクチンです。

注) 2006年4月から麻しん・風疹混合(MR)ワクチンが開始され、2006年6月から小学校入学前のすべての子どもを対象に2回目のMRワクチンが開始になっています。